

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	災害復興制度研究所
大項目	11 教員・教員組織
中項目	
小項目	11.0.2 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。
要素	編制方針に沿った教員組織の整備 授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備 研究科担当教員の資格の明確化と適正配置(院・専院)
小項目	11.0.3 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。
要素	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化 規程等に従った適切な教員人事
小項目	11.0.4 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。
要素	教員の教育研究活動等の評価の実施 ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施状況と有効性

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 教育拠点形成に向けて「災害復興学」を継続的に開講するため、その教員組織や運営体制を整備する。	→「災害復興学」の継続開講年度数、担当学部数、担当教員数、履修者数。	B
2. 国際的拠点形成に向けて、国際教育・協力センターとの協力関係を構築する。	→国際教育・協力センターとの連携による研究者・学生の交流実績。	C

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

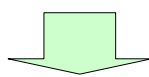
☆	小項目 11.0.2	<p>(方針)</p> <p>教育拠点形成に向けて「災害復興学」を継続的に開講するため、その教員組織や運営体制を整備する。2007年度から開講している総合コース「災害復興学」は、4年目の2010年度で打ち切りとなる。2011年度以降も共通教育プログラムの正課科目として全学的支援体制で継続して開講することにより、教育拠点の構築に繋がる。</p> <p>国内における社会的拠点性は確立されつつあるが、国際的拠点形成はまだこれからである。研究所予算のみでの国際交流は困難であるため、学内の既存の組織との連携で目的を果たす。</p> <p>(現状説明)</p> <p>災害復興学の教育拠点形成を進めるため、2009年度も総合コース「災害復興学」を開講した。2007年度からの履修者数は次のとおりである。履修者数が減少している理由は、評価を毎回の小テストから定期テストに変更したこと、阪神・淡路大震災の体験者が皆無に近くなったこと、が考えられる。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">授業科目名</th> <th rowspan="2">開講時期</th> <th colspan="4">履修者数</th> </tr> <tr> <th>2007年度</th> <th>2008年度</th> <th>2009年度</th> <th>2010年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合コース498「災害復興学」</td> <td>春</td> <td>254</td> <td>490</td> <td>86</td> <td>32</td> </tr> </tbody> </table> <p>国際的拠点形成をはかるため、2010年度グローバルCOEプログラムへの応募に向けた実績づくりに着手した。まず東京で各省庁参加のもと国際シンポジウムを開催することとし、内閣府、文部科学省、国土交通省、総務省消防庁の賛同を得た。そして、日本災害復興学会と新潟県が共催で2009年10月に開催する国際会議に招聘されている顧林生・中国 清華大学公共安全研究所所長、陳亮全・台湾大学教授、Laurie Johnson (ローリー・ジョンソン)・米国ニューオーリンズ復興総合計画UNOP担当者を東京に招いた。さらに総合政策研究科の復興学の拠点形成をはかる狙いでCOE客員教授にGuna Selvaduray (グナ・セルバデュレイ)・米国カリフォルニア州立大学サンホセ校教授を推薦、招聘した。この4人をパネリストに2009年10月19日、東京・丸の内にて国際シンポジウムを開催した。</p> <p>ところが、9月の総選挙で政権が交代、年末の事業仕分けでグローバルCOEプログラムの新規採択がなくなり、申請断念に追い込まれることになった。</p> <p>これらの他、2009年11月に人間福祉学部との共同開催で、JICA特別講義「私たちにできる国際協力・支援とは～途上国での生活と仕事からみる国際協力」を実施するとともに、2010年2月にAMD Aの医師やハイチ国際緊急援助隊医療チーム、ハイチ出身者やハイチでのボランティア経験者を招き、「ハイチ地震報告会」を大阪梅田キャンパスで開催した。</p> <p>国際教育・協力センターとの連携による研究者・学生の交流は、これからである。</p>	授業科目名	開講時期	履修者数				2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	総合コース498「災害復興学」	春	254	490	86	32
	授業科目名	開講時期			履修者数													
2007年度			2008年度	2009年度	2010年度													
総合コース498「災害復興学」	春	254	490	86	32													

☆	小項目 11.0.3	(現状説明) 災害復興制度研究所に配属されている主任研究員（1名）および専従の研究員（1名）は、特別任期制教授および准教授であり、所属は学長直属である。そのため、採用および更新については、大学評議会において審査され、学長が任命することになっている。
☆	小項目 11.0.4	(現状説明) 災害復興制度研究所の特別任期制教授および准教授は、毎年度末に災害復興制度研究所長を経て、学長に活動報告書を提出することになっている。
☆	その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価（1）】効果が上がっている事項

☆	小項目 11.0.2	
	小項目 11.0.3	
	小項目 11.0.4	
	その他	



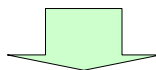
【次年度に向けた方策（1）】伸長させるための方策

☆	小項目 11.0.2	
	小項目 11.0.3	
	小項目 11.0.4	
	その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価（2）】改善すべき事項

☆	小項目 11.0.2	・震災体験のない学生にも関心もてる科目構成、評価方法を検討する。
	小項目 11.0.3	・国際分野の研究・教育面の整備・強化。
	小項目 11.0.4	
	その他	



【次年度に向けた方策（2）】改善方策

☆	小項目 11.0.2	・「災害復興学」を春学期と秋学期に分け、学部につながる科目構成とする。 春学期：阪神・淡路大震災の「語り継ぎ」に重心を置いた講義。 秋学期：西宮上ヶ原仕様（社会学部・人間福祉学部寄り添う科目構成）と神戸三田仕様（総合政策学部寄り添う科目構成）を用意。
	小項目 11.0.3	・国際問題を担当できる専任研究員、若しくは教員の採用。
	小項目 11.0.4	
	その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

☆	その他 (自由記述)	
---	---------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

○現状説明は、教員・教員組織に関連した現状の説明ですが、限られた教員組織の中で、学内の既存の組織との連携を追求していることは、今後に向けて評価できる試みのように思います。
 ○教育課程に相応しい教員組織の整備に関しては、現在の総合コースの講義を行う上では十分に機能していると考えられ、評価できます。ただ2011年度以降、正課講義になった際には、教員組織の適切性を再度検証する必要があります。
 ○また、履修者の減少に歯止めをかける施策を実施する必要もあります。
 ○FDの実施に関しては、現状説明部分で記載がなく、追加修正をする必要があります。(CIEC) 国際教育・協力センターとの連携や研究者・学生の国際交流に関しては、まだ具体的な成果が出ておらず、今後の積極的な取り組みが求められます。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ なし

Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

11.0.0.S1	専任教員一人あたりの在籍学生数
11.0.0.S2	開設授業科目における専任比率
11.0.0.S3	専任教員の年齢別構成
11.0.0.S4	教員一人当たりの授業時間数
11.0.0.S5	本学出身の専任教員の構成比率
11.0.0.S6	海外の大学で学位を取得した専任教員の比率
11.0.0.S7	教員組織における実務家教員の占める割合(専門職大学院に限定)
11.0.0.S8	教員組織における女性教員の占める割合
11.0.0.S9	任期制教員(契約教員)の採用数
11.0.0.S10	実験実習指導補佐、教務補佐、授業補佐の採用数
11.0.0.S11	ティーチング・アシスタント(TA)の採用数
11.0.0.S12	契約助手の採用数
11.0.0.S13	実験助手の採用数
11.0.0.S14	リサーチ・アシスタント(RA)の採用数
11.0.0.S15	公募制による採用教員の数

<個別的な指標>
